

子ども教育会議 会議録(速記メモ)

日時 令和5年7月31日(月) 13:30~14:35	場所 武雄市役所 4階会議室	出席	小松市長、松尾教育長、大庭教育長職務代理人、 教育委員(馬場、山口、牟田、松尾、田中、大渡、井手、野田)、 古賀子ども教育部長、諸岡子ども教育部理事、教育総務課(木村課 長)、子ども未来課(古田課長、徳永参事)、新しい学校づくり課(石橋課 長、林教育監)、生涯学習課(朝長課長)、市民協働課(野口課長)、庭 木企画部長、企画政策課(小柳課長、力安係長、西村)
1. 協議件名	第33回子ども教育会議(第3期教育大綱の策定について)		

議事録	
内容	<p>1 開会(進行:庭木企画部長)</p> <p>2 議事(議事進行:小松市長)</p> <p>(1)第3期教育大綱の策定について</p> <p>①話題提供</p> <p>企画政策課から、前回の会議でいただいたご意見をふまえた第3期教育大綱の①指針(案)、②基本理念(案)、③教育大綱(案)を示した後、本日協議すべき内容等について説明を行った。</p> <p>②意見交換</p> <p><出席者の意見></p> <ul style="list-style-type: none"> ・指針①について、郷土愛を伝えるために、地域で子どもたちに愛情を注ぐという内容を入れてほしい。 ・指針②について、命についてふれてほしい。生きているから何でもできる、何かあっても生きることを選択するために、安心安全な環境を整えるという内容を入れてほしい。 ・指針③について、お互いを認め合う力、相手を尊重する力という内容を入れてほしい。また、スポーツを通じた学び(温かさ、上下関係、耐え抜く力など)に関する内容を入れてほしい。 ・基本理念は、候補②「もっと、子どもまんなか」がいい。 ・第3期教育大綱の名称は、「生きる」、「認め合う」という意味が含まれたものがいい。 ・指針②について、「誰一人取り残さない」は SDGsやデジタル田園都市国家構想でも同じような考え方があるが、どの範囲の人々を想定しているのか。また、名称がネガティブな意味に感じるため、「誰もが自分らしく生きる」とかポジティブなものがいい。 ⇒企画政策課)SDGsやデジタル田園都市国家構想で示された支援が必要な方を含めた多種多様な支援ができるよう、総合的な意味を持たせ、「誰一人取り残さない」と表現している。 ・基本理念は、候補②「もっと、子どもまんなか」がいい。また、候補①の以前の基本理念「未来を担うすべての子どもを主人公に」は未来を担わない子どもは対象外になるのか。子ども目線で重荷に感じるため、修正するならば「今を生きるすべての子どもを主人公に」のほうがいい。 ・第3期教育大綱の名称は、「対話を大事にする」、「子どもが大人から学ぶ」など新しい教育のかたちがわかるものがいい。 ・指針①について、武雄市では既に基礎ができている。その基礎を強化し、地域全体で子どもたちを中心として取り組むことで指針は実現すると思う。 ・指針②について、「誰一人取り残さない」ではなく、「みんなで一緒に進んでいく」という意味のほうがいい。 ・指針③について、花まる学習会などの多くの体験学習が子どもたちの夢の実現につながると思う。 ・基本理念は、候補②「もっと、子どもまんなか」、候補③「輝くすべての子どもをみんなで育てよう」がいい。 ・第3期教育大綱の名称は、今までの『組む』を前進させるイメージのものがいい。 ・指針①について、学校教育における地域学習の重視に関する内容を入れてほしい。 ・基本理念は、候補②「もっと、子どもまんなか」がいい。

- ・第3期教育大綱の名称について、候補①「輝」は自らの人生を切り開き、前進する姿は輝いているが、「光」という言葉に抵抗を感じる。
- ・第3期教育大綱の名称について、候補①「輝」は送り仮名を付けて「輝く」のほうがいい。新しい提案として「笑顔」はどうか。武雄市で取り組んでいる笑顔のコーディネーターやスマイル学習、花まる学習会などは、すべて子どもたちの笑顔が思い浮かぶため、武雄らしいキーワードだと思う。
- ・指針②について、「すべての子どもたちを笑顔に」という内容がいい。
- ・指針③について、「個別最適な学習と協働的な学び」をセットにしたほうがいい。
- ・基本理念は、候補①を修正し「今を生きるすべての子どもを笑顔に」、候補③を修正し「笑顔輝くすべての子どもをみんなで育てよう」などはどうか。
- ・指針①について、地域全体で教育に取り組むことは、地域に住むすべての人が自分に何ができるのかを考えることだと思うので、その内容が含まれていればいい。
- ・第3期教育大綱の名称は、候補②「希望」がいい。いろんな世代が希望を持てるため。
- ・基本理念は、候補②と候補③を合わせた「子どもまんなか すべての子どもをみんなで育てよう」はどうか。
- ・指針①について、花まる学習会を通じて地域とは密接に関わりができていると思う。企業と学校との関わりについては、行政側から企業に声をかけ、企業から学校に足を運んでもらうことで、将来子どもたちが成長して就職するまでつながればいい。
- ・指針③について、たくさんの体験活動を通じて、子どもたちの心の発達や相手を思いやる気持ちが深まるため、この内容が追加できればと思う。
- ・第3期教育大綱は、候補③「Go Forward」がかっこよくていい。『組む』を基本として、前進させたものもいい。
- ・ボランティア団体の活動の位置づけについて、社会福祉協議会の下請けではないかという意見があった。行政において外部団体をどのように考えているのか。
⇒市長)ボランティア団体の活動について、社会福祉協議会の下請けとは考えていない。地域社会での重要な担い手のひとつだと位置づけでいる。市長部局において市民協働課という課があり、ボランティア団体の活動の活性化や企業、行政、ボランティア団体との協働の推進を担っている。市民協働課を中心に、外部団体との連携を深めていきたいと考えている。
- ・第3期教育大綱は、候補③を修正し「前へ Go Forward」はどうか。
- ・指針③について、「生き抜く体」などのスポーツに関する内容を含めてほしい。
- ・第3期教育大綱は、どの候補も「みんなで創り出す」というイメージに近い。
- ・どこまでを「若者」と捉えるか。
⇒委員)20代・30代でも若者だと思う。教育大綱は、若者を含めた子どもたちや他県などからの移住定住を希望する人へのメッセージ戦略である。この市に移住すれば安心した教育や地域支援が受けられるということがわかる教育大綱であってほしい。教育大綱によって、武雄市に住む若者世代に向けても共通の前向きなメッセージ、若者を大事にするまちであるということが届けばいい。

(教育長)

- ・実際に地域行事に参加して、地域の力を実感した。その際、子どもたちの笑顔を見て、笑顔が全てを象徴していた。地域行事に参加することによる、教育の大切さや希望などの内容がこの案に含まれていて良い。

<市長の発言>

- ・今回の会議では、「今を生きる」、「命を大切に」、「笑顔」という言葉が聞かれた。また、指針②の「誰一人取り残さない」についてのご意見や、地域に住む自分に当事者として何ができるのかを考えることが大事というご意見もいただいた。第3期教育大綱については、新しい教育のかたちを示すものや『組む』からもう一歩進んだもの、「創り出す」というご意見もあった。
- ・これまでの教育大綱は、周りの大人が子どもたちをどう支援するかという内容だった。第3期教育大綱は市民全員が当事者と思え、子どもたち自身もつくり手であり、当事者と思える教育大綱をつくりたい。
- ・また第3期教育大綱を見て、ひとりひとりが当事者と思えて、具体的なアクションにまでつながるものになれば、『組む』からもう一歩先に進むのではないかと考える。

3 閉会(進行:庭木企画部長)